# 資料3

# 第3次町田市 環境マスタープランの概要



八スのが

望ましい環境像

「みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かなまちだ」

### 目次

- ▶ 1 環境マスタープランとは?
- ▶ 2 計画の位置付け
- 3 計画期間
- ▶ 4 計画の対象とする範囲
- ▶ 5 望ましい環境像
- ▶ 6 計画の基本構成
- ▶ 7 計画の基本目標及び施策と成果指標
- ▶ 8 重点プロジェクト
- ▶ 9 「町田市ゼロカーボンシティ宣言」

## 1 環境マスタープランとは?

・2000年に「町田市環境基本条例」を制定

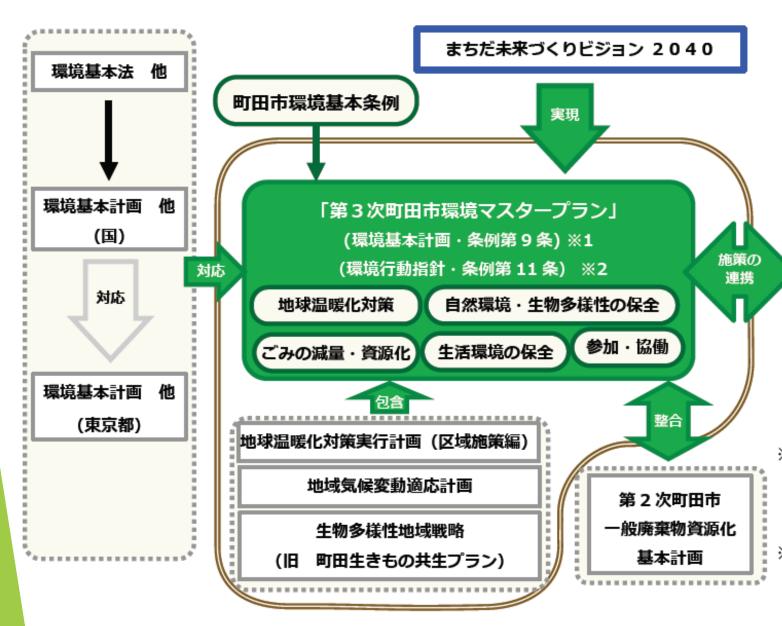
良好な環境を保全、回復及び創造するとともに、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な循環型社会の実現を目指して制定しました。

# ・2002年に「町田市環境マスタープラン」、2012年に「第二次町田市環境マスタープラン」を策定

この計画は町田市環境基本条例第9条の環境基本計画及び第11条の環境行動指針に基づき策定。望ましい環境像を定め、その実現に向けて分野ごとに目標を立て、施策を策定して総合的に推進するための計画です。

・2022年3月に「第3次町田市環境マスタープラン」を策定

# 2 計画の位置付け



町田市の関連計画

町田市都市づくりの マスタープラン

町田市農業振興計画

町田市里山環境活用保全計画

町田市景観計画

町田市下水道ビジョン

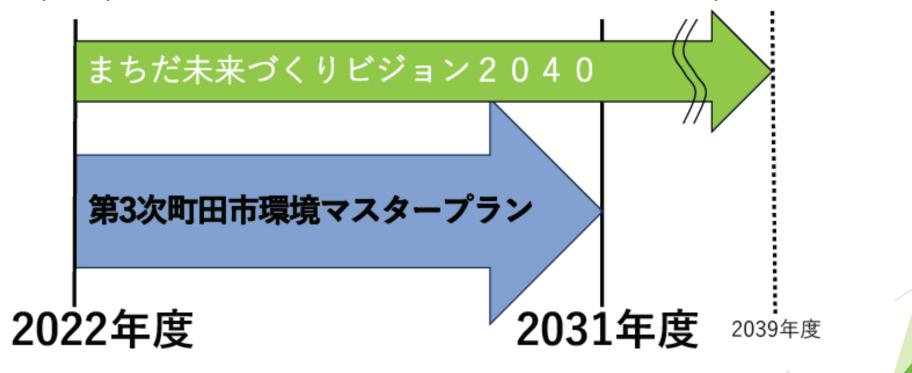
- (1

- ※1 環境基本計画とは、市の責務 として、環境施策を総合的か つ計画的に推進するためのも の。
- ※2 環境行動指針とは、事業者及び市民等が環境負荷の低減 に寄与する行動を取るための 規範となるもの。

### 3 計画期間

本計画の期間は、2022 年度から 2031 年度末までの 10 年間とします。

なお、環境や社会状況の変化に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行います。



# 4 計画の対象とする範囲

### 本計画の対象となる分野と主な要素

分野	主な要素
気候変動	省エネルギー、再生可能エネルギー、気候変動の影響への適応等
自然	谷戸・樹林地・水辺等のみどりや水の保全・活用、生物多様性の保全、農地保全等
都市·歴史·文化	景観、歴史的・文化的環境の保全等
廃棄物	ごみの減量、資源循環利用等
生活環境	大気質、水質、騒音·振動、悪臭等
参加と協働	市民・事業者向けの環境教育・環境学習、多様な主体の協働での環境保全活動等

### 5 望ましい環境像

# 「 みんなで将来に受け継ぐ 水とみどり豊かな まちだ 」

- ・2031年の町田市の望ましい環境像
- ・市民投票を経て決定(市民3,000人に投票をお願い)
- ・町田市の特徴である鶴見川、境川、恩田川などの源流域や里山など、恵まれた自然環境を次世代(将来)に受け継いでいく
- ・環境像の実現のため、市民・事業者と連携・協働

#### <望ましい環境像>

### みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かな まちだ

望ましい環境像「みんなで将来に受け継ぐ水と みどり豊かな まちだ」を達成した町田市のイ メージを示しています。

市内では、太陽光発電や次世代自動車が導入され、さまざまな場面でエネルギーを賢く利用するとともに気候変動への影響に備えています。また、みどりを活用・保全し、生物多様性が守られることにより、さまざまないのちが輝いています。さらに、町田市バイオエネルギーセンターにおける生ごみのバイオガス化・エネルギー利用の推進等が進み、ごみの減量・資源化が徹底されています。

市内は、きれいな大気質や水質を維持し、安全で快適な暮らしを実現しています。こうした取組について、さまざまな主体による協働が進んでいます。

#### 重点プロジェクト1 再生可能エネルギー等の利用拡大



住宅や事業所の屋根に太陽光発電を設置し、発電した電気を利用しています。また、燃料電池を普及させることで、省エネ化や停電時のエネルギー利用が可能となっています。

#### 重点プロジェクト2 次世代自動車等の積極的な導入と 多面的な活用



電気自動車や燃料電池自動車といった 環境にやさしい自動車が普及していま す。また、公共施設等には充電設備を設 置することで、様々な場所での充電が可 能となっています。



#### 重点プロジェクト3 里山環境の活用と保全



里山環境を活用して、市民農園やフット パスなどの体験ができます。また、里山 の保全にも取り組むことで、今ある里山 環境を守っています。

#### <u>重点プロジェクト4</u> 地産地消の推進



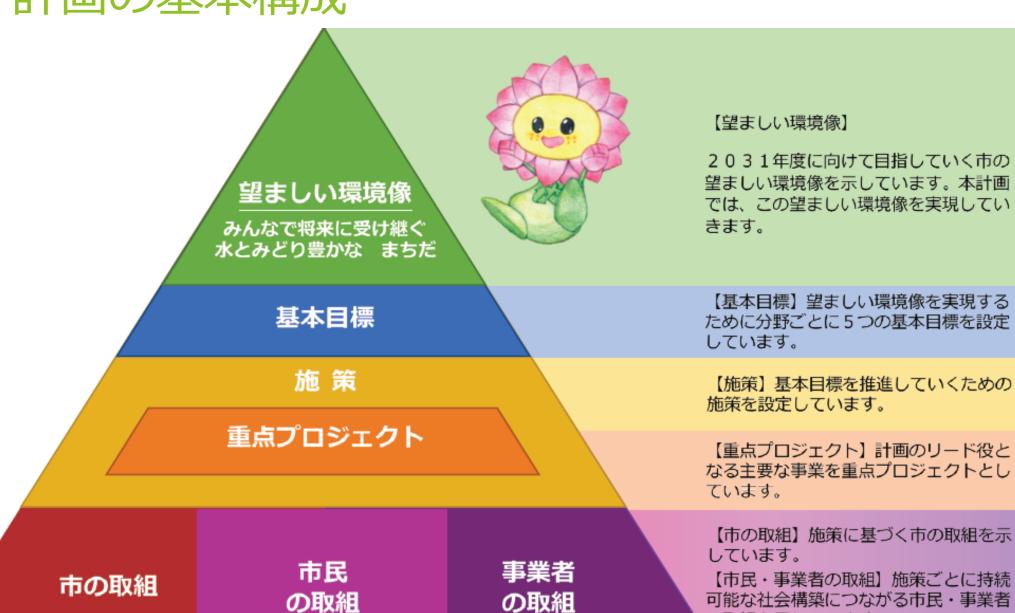
市内で採れた農作物を市内の様々な場所に設置された受け取りボックスを通して手軽に受け取れることで、農作物の地産地消が進んでいます。

#### 重点プロジェクト5 フードドライブによる食品ロスの削減



余っている食品を必要な人に受け渡す フードドライブや飲食店での食べ切りと いった取組を実施することで、食品ロス が削減されています。

### 6 計画の基本構成



の取組を示しています。

### 7 計画の基本目標及び施策と成果指標

本計画では、望ましい環境像を実現するため、5つの基本目標を環境の大綱として位置づけ、その下に施策を設定しています。各施策には関連する成果指標を設定し進捗を確認します。また、計画全体をリードしていく「重点プロジェクト」を5つ設定しています。

望ましい	基本目標	施策	重点	成果	成果指標			2含する分野別
環境像			プロジェクト	指標名	基準値	目標値		個別計画
	1 エネルギーを賢く利		重点プロジェクト1	●市内のエネルギー消費量	13,953TJ <sup>※1</sup> (2013 年度)	9,365TJ(2030 年度) 約 33%削減		
みんな	用し、気候変動の影響にも対応するまち 関連する SDGs のゴール	[1] 省エネルギーの普及・導入を進め ます	「再生可能エネルギ   一等の利用拡大」	●家庭のエネルギー消費量(世帯数当たり)	32.8GJ <sup>※2</sup> /世帯 (2013 年度)	22.8GJ/世帯(2030 年 度)約 31%削減		
			重点プロジェクト2	●事業者のエネルギー消費量(延床面積当たり)	0.84GJ/㎡(2013 年度)	0.57GJ/㎡(2030 年度) 約 32%削減		地球温暖化対策 実行計画
		[2] 再生可能エネルギーの普及・導入を進めます	「次世代自動車等 の積極的な導入と	●市内の再生可能エネルギー導入量(累計)	37,378 k W(2019 年度)	48,313 k W(2030 年度) 約 29%増加		(区域施策編) [1]~[3]
		[3] 将来的なゼロカーボンに向けたま	多面的な活用」	●市内の温室効果ガス排出量	1,489 千 t -CO <sub>2</sub> (2013 年度)	998 千 t -CO <sub>2</sub> (2030 年 度)約 33%削減		
で	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	ちづくりを進めます	重点プロジェクト4	●市内乗用車の登録台数に占める EV <sup>※3</sup> 、FCV <sup>※4</sup> の割合	0.99%(2019 年度)	4.57%(2030 年度)	י ע	
将来		[4] 身近な気候変動の影響への適応 を進めます	「地産地消の 推進」	●気候変動の影響に備えている市民の割合	—(2022 年度)	基準値から 10 ポイント 増加(2030 年度)		地域気候変動 適応計画[4]
に	2 源流から里山、都市		重点プロジェクト3 「里山環境の活用と保全」	●市民協働による生きもの調査への参加者数(延べ人数)	4,340 人(2020 年度)	10,000 人(2031 年度)	11	
受	が織りなす いのち輝 くまち	[1] 生きものの多様性を守ります		●生きものに関心のある市民の割合	70%(2020年度)	80%(2031 年度)		
は継		[2] 水とみどりを守り活用します [3] 歴史的・文化的環境を守ります		●みどりとのふれあいに満足している市民の割合	52%(2020年度)	62%(2031 年度)		生物多様性 地域戦略
が	関連する SDGs のゴール  「「「「「「」」  「「」  「「  「			●水辺とのふれあいに満足している市民の割合	48%(2020年度)	58%(2031 年度)		[1]~[3]
/水とみどり豊かな まちだ				●みどり率	45.8%(2018 年度)	現状維持(2031年度)		
				●歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合	29%(2020年度)	39%(2031 年度)		
	3 徹底したごみ減量、 資源化を進めるまち 関連する SDGs のゴール (************************************	[1] ごみの減量を進めます	- 重点プロジェクト5	●1人1日当たりのごみ排出量	768 g/人日(2019 年度)	714g/人日(2030 年度)	***	を合を図る分野 別個別計画
		[2]環境に配慮した資源化施設を整備し、 適正かつ安全な処理に努めます	「フードドライブ による食品ロスの	●総資源化率	31%(2019 年度)	40%(2030年度)	KI	第2次町田市一 般廃棄物資源化
			削減」	●ごみの焼却による温室効果ガス排出量	約 34,000 t-CO <sub>2</sub> (2019 年度)	約 24,000 t-CO <sub>2</sub> (2030 年度)		基本計画 [1]~[3]
	4 安全で快適な暮らしを 実現するまち 関連する SDGs のゴール	[1] 誰もが快適に安心して暮らせる環		●大気環境、水環境、騒音に関する環境基準の達成割合	78%(2019 年度)	現状維持(2031 年度)		
		境を守ります		●居住地の周辺環境(大気、水質、騒音など)に満足している市民の割合	67%(2020 年度)	77%(2031 年度)		
		[2] 美しく快適なまちを維持します		●まち並みや景観に満足している市民の割合	43%(2020年度)	53%(2031 年度)		
	5 環境について、みんなで学び、協働を進めるまち 関連する SDGs のゴール			●環境に配慮した行動を行っている市民の割合	—(2022 年度)	基準値から 10 ポイント 増加(2031 年度)		
		のネットワーク構築を進めます		●工⊐宣言事業者数	93 店・事業所 (2020 年度)	120 店・事業所 (2031 年度)		
		[2] 誰にとってもわかりやすい環境情 報を発信します		● SNS 等のフォロワー数	1,138(2020 年度)	10,000(2031 年度)		

- ※1 TJ: テラ (Tera)・ジュール (Joule) の略号です。テラは 10 の 12 乗を意味し、ジュールはエネルギー量の単位を表します。
- ※2 GJ: ギガ (Giga)・ジュール (Joule) の略号です。ギガは 10 の 9 乗を意味します。
- ※3 EV: 電気自動車(EV)は電池に電気を充電し、その電気を使い、モーターを回して走る自動車のことです。
- ※4 FCV:燃料電池自動車(FCV)は、燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車のことです。

# 8 重点プロジェクト

「第3次町田市環境マスタープラン」のリード役として、主要な事業を重点 プロジェクトとして設定しています。重点プロジェクトの設定の視点につい ては以下のとおりです。

#### <重点プロジェクト設定の視点>

- 環境課題の解決に大きく貢献する
   地域特性に起因する環境課題や社会的に強く要請される環境課題に対し、市が優先的に取り組み、課題解決を図るべきもの。
- SDGs の視点から環境、経済、社会を統合的に向上する 環境側面からアプローチすることで、市の環境課題だけではなく、経済面、社会面にお ける地域課題に対しても、相乗的・副次的な効果が期待されるもの。



































「第3次町田市環境マスタープラン」では重点プロジェクト設定の視点に基づき、 重点プロジェクトを以下のとおり5つ設定しました。

※各重点プロジェクトの概要(プロジェクト概要、プロジェクトイメージ、ロードマップ) について 次ページ以降に記載しておりますので、ご確認ください。

	重点プロジェクト名				
重点プロジェクト1	再生可能エネルギー等の利用拡大				
重点プロジェクト2	次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用				
重点プロジェクト3	里山環境の活用と保全				
重点プロジェクト4	地産地消の推進				
重点プロジェクト5	フードドライブによる食品ロスの削減				

重点プロジェクトは、未来への展望として市の基本計画である「まちだ未来づくりピッコン2040」とも内容の整合を取りつつ、関連する成果指標とともに、10年間で取り組む行程を落としこんだロードマップで進捗を図ります。なお、5年目を目途に事業の見直しを行い方向性を確認します。

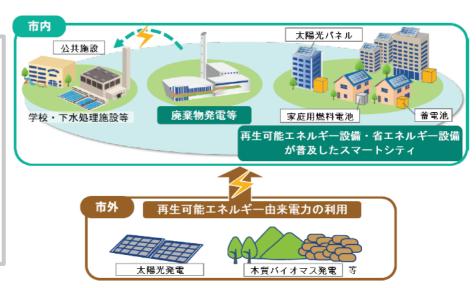
### 重点プロジェクト1 再生可能エネルギー等の利用拡大

#### プロジェクト概要

町田市内の二酸化炭素排出量を削減するために、再生可能工 ネルギーの利用拡大を図っていくプロジェクトとなります。

例えば、ごみ焼却施設で発電した電力を市内の公共施設に供給したり(エネルギーの地産地消)、公共施設をはじめ、家庭や事業所が太陽光発電等の積極的な導入を図ったり、各家庭には家庭用燃料電池等の省エネルギー機器の普及、公共施設等へは防災面の強化を図るための蓄電池等の設置をすすめ、地域が一体となったエネルギーの有効利用や防災機能の強化が実現したスマートシティの構築について検討を行います。

さらに、町田市内だけではなく、市外からも太陽光発電等の 再生可能エネルギーの導入を検討し、市内外での再生可能エ ネルギー等の利用拡大を図り、将来的には「ゼロカーボンシ ティまちだ」を目指していきます。 プロジェクトイメージ





### 重点プロジェクト2 次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用

#### プロジェクト概要

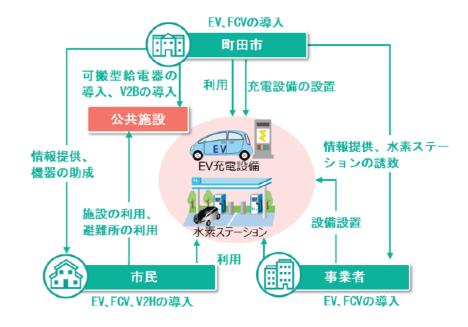
町田市内の二酸化炭素排出量の削減や、家庭や市域全体の防 災機能の強化をすすめるため、次世代自動車等の積極的な導 入と多面的な活用を図っていくプロジェクトとなります。

例えば、町田市役所が率先して、次世代自動車(EV、FC V等)を導入するとともに、家庭や事業者においても次世代 自動車への転換が図られるよう普及啓発を行っていきます。

また、次世代自動車の普及には充電設備等の拡充も必須条件であることから、EV充電設備の設置や水素ステーションの誘致等にも取り組みます。

さらに、車と建物等の相互供給が出来るシステム(V2HやV2B)の導入や普及啓発をすすめ、市域の防災面の強化も図っていきます。

プロジェクトイメージ





### 重点プロジェクト3 里山環境の活用と保全

#### プロジェクト概要

里山環境を地域の社会基盤として捉え、多様な主体による連携・協働により、時代に即した新たな循環サイクル(里山を活かす、守る、支える)を構築し、持続可能な保全につながる里山環境の活用を推進するプロジェクトとなります。

例えば、里山を「活かす」では自転車やフットパスな ど里山環境を活かす取組を行います。

里山を「守る」では、生物多様性の保全や良好な景観 の維持、緑地・水源等の環境の持続可能な維持・保全 を図ります。

里山を支えるでは、観光支援や事業者の参画の支援、 里山の魅力の発信などを行っていきます。

里山を守る 里山を活かす 樹木更新の ための伐採 プ 観光農園収穫体験 自転車 ジ ・地場野菜販売 ・製材加工品販売 I · 来訪者飲食等 ク 交流回遊拠点 -里山環境の保全 X 単山を支える ジ ・里山の魅力発信・保全活動支援・事業者等の参画支 援・起業創業支援・観光支援など、里山環境の持続 可能な保全につながる取組や活動を支援する



### 重点プロジェクト4 地産地消の推進

プ

ジ

I

ク

1

X

ジ

#### プロジェクト概要

地産地消を推進することで、町田産農産物のブランド 力向上、地域への愛着心の創出、食育の理解促進、地 域内でお金が循環することでの地域活性化、輸送距離 が減る事での温室効果ガスの排出削減などを図るプロ ジェクトとなります。

例えば、アプリを使った地産地消の事業をすすめている所ですが、アプリを通して、町田産農産物を注文でき、好きな時間に公共施設やコンビニに設置してある受け取りボックスで受け取ることが可能となっており、生産者は共同集荷場に農産物を持ち込み、民間事業者が新鮮な野菜を市内の受け取りボックスに配送します。

このような市、市民、農家、団体・事業者による地産 地消の推進により、市内生産者の更なる販路拡大や町 田産農産物のブランディング向上等を実現します。

新鮮な農産物を配送

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
	地産地	地消の情報	報発信							
	受け取り	<b>クボック</b>	ス増設							
ı				実施事業	業の検証	(継続・	拡充)			
	出荷登	<b>登録者拡</b>	充							

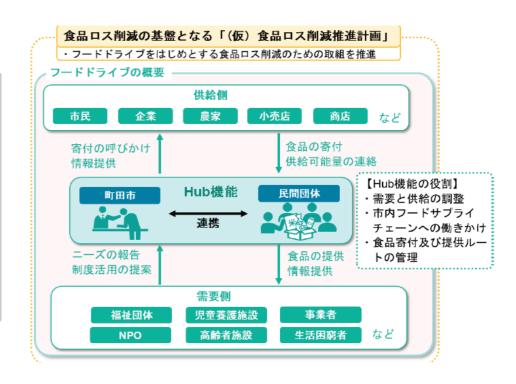
### 重点プロジェクト5 フードドライブによる食品ロスの削減

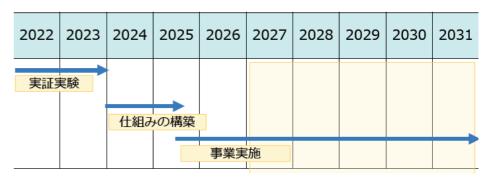
#### プロジェクト概要

フードドライブをはじめとする食品ロス削減のための 取組を推進することで、食品廃棄物の削減、市全体で の廃棄物量の減少による二酸化炭素の削減、ひとり親 家庭などへの食品の提供による、セーフティネットの 創出などを図っていくプロジェクトとなります。

例えば、フードドライブの取組としては、市や民間団体がつなぎ役となり、食品が余っているところと食品を必要としているところを結びつける仕組みを構築し、廃棄される食品を出来る限り有効活用することで、食品ロスの削減を図っていきます。

プロジェクトイメージ





# 9 「町田市ゼロカーボンシティ宣言」

・2022年1月24日町田市長が「町田市ゼロカーボンシティ宣言※」

をしました。

※2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする宣言を首長等が宣言した 自治体をゼロカーボンシティといいます(とりまとめは環境省)。2030年度 までの取組を着実に推進することで脱炭素社会実現の土台を作ります。

